

う場合につきましては、次回、議会のほうから、また見直してまいりたいと思います。

それでは、これより一般質問を行います。質問は通告の範囲内にとどめますよう、通告外とならないようにご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。〔16番 中村 実君登壇〕

○16番（中村 実君）

おはようございます。

創生クラブの中村です。

通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、市内で想定される災害や惨事における対策・対応について伺います。

糸魚川市内では、過去に多くの災害が発生し、残念ながら犠牲者も出ております。発災後の改修・改良工事及び市民周知や啓発により、徐々にではありますが、ハード・ソフト面での災害対策がなされてきました。

しかし、国や県、市の財政難により、近年では予算も削減され、安全対策に遅れが見受けられるとともに、市民の安全意識も薄れてきたように感じられます。過去の災害は、河川の氾濫、地滑り、雪崩、また高波などでしたが、最近では能登半島地震において、多数の屋根瓦の落下、のり面崩落、液化現象や大雪による除雪の遅れなど、今まで経験しなかったような災害も発生しており、市では、今までも市民の生命・財産を守るために、ご尽力いただいておりますが、改めて今後の当市における対策や対応について、次の点を伺います。

(1) 雪崩対策や雪解け後の地滑り対策及び除雪対策について伺います。

(2) 線状降水帯等による大雨対策について伺います。

(3) 地震・津波対策について伺います。

(4) 新潟焼山の避難等、災害対策について伺います。

(5) 柏崎刈羽原子力発電所における原子力災害の対応について伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、積雪期においても安全な日常生活や円滑な経済活動が確保されるよう、関係機関と連携して災害防止及び応急対策に努めてまいります。

2点目から4点目につきましては、「自分の身は自分で守る」避難行動など、日頃の備えの周知や過去の災害の教訓を後世につなぐ取組を引き続き行ってまいります。

5点目につきましては、緊急時には地域防災計画に基づき、情報収集、住民等への情報伝達、屋

内退避及び避難の実施、広域避難者の受入れなどの対応を行ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ありがとうございました。

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

市長もご存じのとおり、糸魚川市は、海、山、川、大変風光明媚な地域ということで、いろんな人が訪れていますが、その反面、災害も多く見られております。

そこで、今回は地元の自然災害や被災者の受入れ等について、伺いたいというふうに思っております。

今年は、この夏は酷暑ということで、大変暑い夏だったというふうに思っております。今年は暑かった分、冬大雪になるのではないかというようなことも言われていますが、令和3年の冬だったというふうに思うんですが、大変な大雪に見舞われまして、国道も高速も全て通行止めになるという大変な冬はありました。ほとんどのオペレーターと助手は、一睡もしないで対応に当たっていましたが、今冬もこの大雪だというようなことも言われておりますので、今冬の状態をどのように担当として捉えているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

今ほど中村議員のほうからもお話ありましたとおり、令和3年ですね、大雪、私も承知しております。そのときの大雪を教訓とさせていただきます。3年度シーズン以降、除雪計画のほうを見直しさせていただきます。大雪の際は、優先して除雪を行う路線、例えば重要路線ということで、国・県道のアクセス路線とか、あと病院、学校へのアクセス路線等を定めさせていただきます。各業者のほうに対応のほうをお願いしてるところでございます。

今冬につきましても、各路線を熟知した業者の皆様からご協力のほうをいただきまして、万全を期してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

令和3年の降雪以来、そのような取組がされているというのは私も分かっているわけですが、私が心配してるのは、やっぱりオペレーターの高齢化が大変心配してるのはある。二、三年前からG

PSを各車両に搭載いたしまして管理してることで少しは楽にはなってはきているんですが、この二、三年後の、今年はぎりぎりぐらいかなと思うんですよ。二、三年後のこの人材不足や高齢化対策、その辺は今答弁がなかったんですけど、その辺はどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほど議員のほうからご指摘ありましたとおり、建設業、特に除雪作業におけるオペレーターの高齢化と人材不足というのは喫緊の課題であるということで私も認識しております。

市としましても、除雪体制の維持に向けまして、現在、大型特殊自動車運転免許の資格支援のほうを行っております。

また、各業者の皆様から、オペレーターの年齢構成とか、あと今後の見込み等をお聞きさせていただきまして、除雪路線の調整のほうをその都度行ってるところでございますけども、今後も先進事例などを調査研究させていただきまして、研究のほうをしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

昔は結構、大型とか大型特殊免許が取れる年になると、皆さん、みんな取ったもんなんですよ。ただ、最近の若い人というのはあんまり免許を取りたがらないんですよ、補助制度があっても。だから今後、高齢化とか人材不足に即対応できるとしたら、消雪路線を増やすことも一つの手だと思ってるんですよ。特に町なかですよ。町なかの狭いところを消雪入れることによって、除雪をしなくてもよくなる。町なかはどうしても時間がかかりますので、そういうところで人材が減っても対応できるとか、それとか、場所にもよりけりなんですけど、ワンオペで除雪車両に乗るとい、そういうことも考えていく必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

除雪ならず消雪パイプ、あるいはワンオペ等も検討する必要があるかは承知しております。

ただ、消雪パイプのほうにつきましては、やはり散水に適した地下水の確保とか、あと攪拌で消雪するための交通量というのが要件だと感じておりますので、あと、初期投資に多額の費用がかかることから、すぐにちょっと路線を増やすということは困難であると考えております。

ワンオペ除雪のほうにつきましては、以前から導入しております隣の長野県の小谷村のほうに、昨年、視察のほう行かせていただきましたけども、やはり安全対策とか、課題を感じたところでありまして、やはり当市にこれから導入するということになれば、さらに検討する必要があると感じているところでございます。

また、一部の業者のほうから、聞き取りとしまして、国県道と違しまして、やはり山間地の狭い道路は、前後進しながらやっぱり作業するため、不測の事態が発生した場合に、ワンオペでは緊急対応が困難であるというお話も聞いておりますので、そういった意見も参考にしながら対応のほうを進めたいと感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ワンオペは全ての路線でというわけにいかないですよ。やはり業者と話し合いをしながら、ワンオペでできる場所もあればやるという方向でいく必要があるんです。やっぱり今、課長が言われたように、ワンオペでやったおかげで、除雪が悪くてクレームが来たり、事故が、特にバックするようなどころはまずいですよね。事故があったりということも考えられますので、やはりその辺は業者とよく話して、1路線でも2路線でも少しずつ増やしていくということも計画していく必要があると思います。

また、消雪パイプなんですけど、前々から建設課のほうへお願いに行っても、まず言われるのが、水が出ない。予算がないんだ。大体その2項目で終わってしまうんですよ。でも、これからはね、それじゃ駄目ですよ。やっぱり計画的に路線、特に町うちの狭いところは消雪パイプを入れれば除雪もしなくていいですし、高齢化に伴い路肩に置いていった雪のまたじもしなくていい。お年寄りも助かる。だから計画的にやるべきですよ。148号線なんかを見てても、やはり計画的に少しずつ伸ばしてますよね。そういうのも考えながら、ぜひやっていただきたいというふうに思っています。

次に、地滑りについて少しお聞きしたいんですが、昭和38年、小泊の地滑りがありました。このときは25戸が全壊しまして、4の方が亡くなってる。その数年後に、玉ノ木で10の方が亡くなった。この地滑りは、やはり雪解け後の割れ目に雪や雨水が入り込んで雪崩を起こしたというふうに言われております。

このような災害は、早期発見することによって、何とか防げるものもあるかというふうに思うんですが、今後は、早期発見するにはやっぱり地滑り監視員だけだとちょっと難しいと思いますので、地域の協力もいただきながら進めていく必要があると思うんですけど、その辺の考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

警戒が必要な地滑り防止区域につきましては、地滑り巡視員さんの皆様から巡視をいただいているところでございますけども、今ほど議員のほうからご指摘ありましたとおり、やはりそれだけではちょっと限界があると感じております。地域の皆様のご協力も必要不可欠だと思いますので、何かお気づきな点があれば、速やかにお知らせいただけるよう、今後、周知のほうを進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひお願いします。最近、お年寄りも畑へ行かなくなったんですね。昔は畑行ってて草刈りしていると、ここに亀裂が入ってたとかという情報もあったんですけど、今そういう情報も入らないので、少しその辺も、まだ山へ行ってる人もいますので、密にしていなければなというふうに思っています。

次に、雪崩であります。数年前に島道鉱泉へ行く途中の道で雪崩が発生しまして、1人の方が亡くなってしまいました。その前にも早川で、春の山へまだ雪が、残雪があるときに山菜採りに行って、雪庇が落ちてきたのか雪崩なのか、その辺の原因はよく分からないんですが、女性の方が亡くなってしまいました。やはりこれから、春に向かってそういうことも発生しやすくなるので、大雪のときは、この辺雪崩が起きそうですよという情報だとか、春の山へ行くときは、非常に危険ですよという情報を早めに、その時期にあった、早めに市民の方に情報を流すということもする必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

近年、春に向かって雪崩のほうが発生してるという状況を私も把握しております。雪崩につきましては、雪崩防災週間に合わせて啓発活動を行っておりますし、あと、融雪災害の危険性が高まりましたら、融雪災害警戒本部等を設置するなどしまして、今後も早めの注意喚起とか、情報収集に努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひお願いします。もし今年が大雪になったら、雪崩の発生もあると思いますし、春先、雪解けとともに、やはり皆さん山菜取りに行かれると思うんですね。大変危険なところもあるので、その辺の周知をしっかりとさせていただきたいというふうに思っております。

次に、線状降水帯について伺います。

線状降水帯による災害が大変発生しています。糸魚川では、あんまり今んところないんですが、もし糸魚川市でもこの線状降水帯が発生して停滞してしまうと、7.11水害のような大きな水害・災害が発生するというふうには私は思っています。そのような線状降水帯とか豪雨、台風とか、そういうことに対しての気象情報、これは安心メールとかで流すわけですけど、気象情報は、消防なら消防で単独で決めるわけじゃないんで、気象庁の情報を取っているのか、また、民間の、そういうところと契約して取っているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

気象庁では、線状降水帯の予測情報を出しておりますので、そちらを注視しております。また、大雨に関する気象情報というの、併せて気象庁のほうで出しておりますので、そちらですとか、また、国、県でも河川の雨量情報などを発しておりますので、そちらを集中しているといった状況になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

その辺もしっかりした情報が出ると思うんですけどね。民間の情報というのは今、素晴らしいんですよ。だから、高速なんかは民間機関から情報を買って、それで、ピンポイントの情報が出てくるんですよ。だからそういうピンポイントの情報を、例えば糸魚川で今こういう線状降水帯が来ますよということじゃなくて、例えば青海地域に停滞しますよとか、能生地域に停滞しますよとかいう、そういうのが民間では、ある程度当たる確率で買取れるんで、そういうのもぜひ、今後考えていただければ、なお市民の安全にもつながるのではないかなというふうに思っています。

また、最近この辺ではないんですが、線状降水帯によることで、マンホールの蓋が、テレビでよくやってましたよね。マンホールが飛ぶ、エアハンマー現象。それとか高架下の雨水の水がたまって、車のはまってしまうアンダーパスとか。あまり経験のない被害ですけど、糸魚川市にも、ああいう映像を見てれば、糸魚川市も点検はしたと思うんですが、マンホールのそういう危険箇所の点検というのは済んでいるのか。また、アンダーパスが何か所あるのか分かりませんが、そういうところの、もしアンダーパスになった場合に、すぐ通行止めするとか、そういう対策を取れる状況にはあるんですか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

まず、マンホールのほうにつきましては、老朽化対策を行う中で、マンホールの蓋を随時、今取替えを行ってるところでございます。

あと、アンダーパスについてなんですけども、やはり近年の集中豪雨を見ますと、私らはアンダーパスの管理が一番危惧しているところでございます。

アンダーパスにつきましては、日常点検等の維持管理とか、あと大雨時の監視措置等を業者のほうに委託しておりまして、地下道の中でも、雨水と排水路水中ポンプとか、あと水位が上昇した場合に報告するパトライトとか、あと、かん水センサーというものを一部の地下道に設置させていただきまして、事故等の未然防止のほうを図っているところでございます。

また、大雨の、最近、発生頻度が増えておりますので、かん水の危険性とかが予想される場合につきましては、直営で、道路パトロール等を実施させていただきまして、速やかに安全な通行を確保するように努めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

アンダーパスの場合は、今、業者とタイアップして対策を取っているということで分かりましたけど、今話がありましたように豪雨のときですよ、本当に線状降水帯が停滞して豪雨になったときは、地滑りだとか土石流、河川の氾濫等、多くの災害が考えられるんですよ。そういったときに、行政だけのパトロールでは多分回り切れないと思うんですよ。そのようなときに、業者ともそういう提携を結んでいるのか、各市民からも情報を取れるような、そういう状況になっているのか、その辺を聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

消防本部のほうでも、先ほどお答えさせていただいたような気象庁からの早期注意情報ですとか、また、国・県の河川の雨量情報などを基に注視する段階で警戒パトロール等、出ておりますけれども、それ以外にも、安心メールを、これから大雨の予報が出てます。気をつけていただきたいといったお話と併せて、土砂災害の予兆ですとか、異変等にお気づきの点があれば、市に連絡をもらうようにといった形で流ささせていただいております。なかなかすぐに難しいかもしれませんが、引き続き情報を早く集めるように、できるようにいろんな場面を通じて呼びかけていきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

あんまり、何かあったら情報を聞かせてくださいというのは、私も耳に入っていないものですから、ぜひ各公民館体制でもいいんで、しっかりとその辺を周知して、そういう災害のときは、すぐ連絡くださいというようなことをはっきりしっかり言ったほうがいいと思いますよね。

それから、大雨なんですけど、9月3日の午前中に早川橋の上で大型キャリアカーの火災が発生して、8号線が通行止めになってしまいました。それと同時に、大雨で名立の先の8号線が土砂崩れで通行止めになる。私も糸魚川からちょうど帰るときに、早川橋のすぐ近くだったんですけど、そこ通れないものですから山を回って帰ろうと思ったんですけど、早川橋の右岸のほうへ通って、

国道へ抜けて、私の場合は帰ったんですよね。向こうへ、能生へ向いていくときには、もう既に高速が通行止めなもんですから、大型車両がもう8号に流れ込んできて、山側の道路は、もう完全に麻痺してるという状態で、能生ももう完全に孤立状態、どっちも行けないという、高速も通れない、8号線も通れない、完全に早川から能生谷は孤立してしまいました。その孤立してるときに、火災という連絡はなかったんですけど、救急車、救急搬送という、そういう事態は発生しなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

当日は、救急出動はございませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

よかったですね。私も、あったかどうかというのは全然確認してないんですけど、もし早川橋から能生の間で救急搬送しなきゃいけないという状況が起きたときは、どのように対応する予定、その計画というか予定があるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

ケース・バイ・ケースだと思いますが、例えば9月3日のような状況でございますと、今、中村議員が早川の右岸といいますか浦本寄りといいますか、早川分遣所ですと、そちらを歩いていきますし、また、能生分署、山側のほうは渋滞しておりましたが、海側のほうは空いてるということで、例えば能生分署のほうから来ると。ただ、火災の場合ですと全隊出動しておりますので、非番者が来ないと救急車が出動できませんので、救急隊が調った近い署から出動させるといったような対応を取るようになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

時間がかかりますけどね、反対車線に来て、やっぱり対向車が来るんで、すり替えしながら入

ってこなきゃいけないんで時間はかかりますけど、やはり取りあえず今回の場合は、早川のあの川の手前から入れば糸魚川へ抜けられるということだと思うんですね。川さえ渡ってしまうと、糸魚川方面って結構、山へ入ると迂回路があるんですね。それで対応できると思うんですけど。能生のほうも上越へ抜ける、山から上越へ抜ける迂回路と言われている山道といいますかね、それは結構あるんですよ。

ただ、能生へ抜ける、能生から糸魚川へ抜ける道がないんですね。救急車みたいにサイレン鳴らして反対車線走れないんで、そうなると、能生のゴルフ場の近くの朝日川橋から早川の猿倉へ抜ける林道入山吹原線、そこ1か所だけしか私、思い浮かばないんです。ただそこは、雨が降ると、雨とか雪降った後もそういうんですけど、落石・倒木がすごいんですね。だから、そういうところの管理といいますかね、冬期間は通れませんが、雪消えとともに早急に落石の対応だとか、それから山道知らない人もいるので、地元の人への周知及び看板ですよ、ここへ行けばどっかへ抜けられますよという、そういう看板の設置も今後考えていく必要があるんじゃないかと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほど議員のほうから、能生から糸魚川に抜ける林道入山吹原線のお話ありましたけども、ただ、国道とか高速道路が交通止めとなった際、迂回路として、ほかにも市道とか林道といいますか、代替路線として通行できる箇所があると承知しております。そういった箇所につきましては、落石とか、あと除草等の対策を行いまして、日常から道路の維持管理を、適切な道路の維持管理に努めてまいりたいと考えております。

また、迂回路に関する周知ですか、看板設置につきましても、いろんな迂回路の役割あるかと思えますけども、状況に応じまして、対応のほうを考えていきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ、取りあえず吹原線はみんな知ってるんですね。迂回路というか、早川へ抜けられるというのは、能生の人はある程度、吹原線というのは分かっているんですけど、今年も私、抜けられるんかなと思って行ったら、結局春先、大分たってからですけどね、落石と倒木で途中からもう行けなくなってた。聞くと、毎年そんな状況なんで、やはり早めに、そこだけじゃなくてね、ほかのところも早めに、安全に通れるような、陸の孤島になっても抜けられるんだよというところをやっぱりしっかり確保して、看板なりなんなり周知しておく必要があるというふうに思いますし、これは、能生ばかりじゃなくて、糸魚川から市振に抜けるほうも、どういう路線があるのか分かりませんが、多分、孤島になるんじゃないかなというふうに思いますので、それもしっかりと対応していただきたいと思えます。

次に、地震と津波について伺います。

今、大変問題になってます南海トラフ地震と首都直下型地震について伺いたいと思いますが、この2つの地震、同時に発生するという事じゃないんですけど、この地震が発生した場合に、新潟県は被害想定区域に入っていないんですよ。糸魚川には、新潟県はあまり被害が受けないということになっているんです。一番近いとこだと長野県が被害想定区域になる。長野県までが被害想定区域なんだそうです。糸魚川は、被害想定区域には入っていませんけど、大きな地震が発生するということで、そうなれば当然、何らかの被害は糸魚川でも発生するというふうに思っております。そういったときに糸魚川で大したことなれば、やっぱり消防のほうでも被災地のほうへ救援・応援に出かけなければいけないというふうに思っているんですが、その辺の対策というのは取られているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

例えば今年の大船渡の大規模林野火災、あるいは昨年の能登半島地震のように、被災地へ消防隊が出向くという、いわゆる緊急消防援助隊、その応援計画、あるいは当市で受ければ、当然、受援計画なんですけど、そういった計画に基づきまして、被災地へ新潟県隊の一員として出動するといったようなものになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

単独で行くということではできないと思うんですよ。

ただ、あれだけの騒ぎになってるときに、相手方から来てくれという連絡もなかなかつかないと思うんですよ。それと、震源地に近いほうはどうしても、もう道も通れないし、そういう状態だと思うんで、例えばお付き合いのある市だとか、そういうところと協定を結んで、そういう付き合いをしていく必要があるんじゃないかなというふうに思うんですけど、そういうことは単独ではできないものなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

現在のところ、市単独で南海トラフ地震ですとか、首都直下型地震の想定被災地のほうとの協定を、災害時の協定を結んでいるといったところはございませんけれども、先ほど消防長が申し上げましたように、緊急消防援助隊として行く。また、職員と、市としては、県内の市町村と連携してチームにいがたとして対応するといったことが考えられるというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

なかなかね、ここの糸魚川の大規模火災のときもね、いろんなどころから来ていただきましたけど、そこそこ時間がかかるんでね、その辺ちょっと心配してたもんですから。ただ、消防が向こうへ行くというの、なかなか難しいと思いますが、時間がかかると思いますが、例えば向こうで被災された方たちを糸魚川市で受け入れてやるんだと。そういう体制も取っておく必要があると思うんですが、そういう受入れ体制ですよ、逆にね、そういうものというのは考えているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

現在のところ、そういった被災者の受入れ計画ですとか受入れ体制についてはございませんけれども、仮に、また支援の要請等ございますれば、市の被災状況を勘案して、市民の安全が第一といったところにはなりますけれども、様々な支援する方法が、方策があるかと思しますので、被災地支援については検討していきたいというふうなことでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

本当にこういう記事読んでると、この大きな地震だと、何十万棟、何百万棟という家が潰れて、火災が発生する。何十万人もの人が亡くなってしまふ。当然何十万人も亡くなるってことは、それの何倍もの人がけがをされたりするわけですよ。そうするとやっぱり、今から何かあったら来てくださいってことじゃなくて、何かあったときに、すぐ受入れができるようなね、そういう体制ぐらいやっぱり考えとく必要があるんじゃないかなと、早期受入れ体制ですよ。これもどっかと、やっぱり県とか国とかと連絡を取らないとそういうこともできないってことなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

議員もご指摘のとおり、多分、被災地独自で支援を求めるといのがなかなか難しい状況になるのだと思います。そういったときには、都道府県なり、また国なりから支援の要請が来る。それを受ける場所というのは、一時的に県なりになるのかというふうには考えます。

したがいまして、県なりから、また私ども市町村に連絡、要請があった際には、その場で検討していくといった形になるかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

なかなかね、行政というのはそういうところが難しくて、民間みたいにすぐ対応するというわけにはいかないと思うんですね。でもやっぱり計画の中にはね、頭の中には、もしそういうことが起きて、何千人、何万人って人たちが、受入れしてくれというときがあったら、やっぱりできるような、糸魚川で何人受けられるかね、後で原発のほうでも出てきますけど、そういう体制もしっかりと計画の中に残しておいていただければありがたいなというふうに思います。

次に、新潟焼山について伺います。

市長は先月ですか、洞爺湖火山防災フォーラムに参加してきましたが、そこでは地元根差して、防災・減災に取り組んでいるNPOの人たちの話があったと伺っていますが、どのような内容だったのか、あまり詳しくはあれですけど、この焼山防災、何かあったときに生かせるようなものがあったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

洞爺湖では、火山・砂防に関する全国大会ということで行ってまいりました。私が一番そこで感じたものは、火山マイスターという65名の登録者がいまして、その方々が、防災活動だとか、火山遺跡、遺構というのがあるんですが、そのところを案内していくという部分で、こういう取組の周知を図っているということです。

ただ、火山マイスターになるには相当の研修といろんな知識が必要になってくると思いますので、糸魚川市において言えば、防災士の養成だとか、そういう中において、火山、焼山という部分に特化したような方々がいらっしゃれば、そういう部分で対応していけるのではないかと思います。非常に私自身も、そういう人材育成については参考になったということを感じてまいりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

そういう人たちがいるということ、糸魚川市でもぜひね、そういう人たちを育てて防災に役立てると、本当に何かあったときの避難体制をしっかりと取れるような、そういうのに取り組んでいただければなというふうに思っております。

この新潟焼山というのは大変な豪雪地帯にありまして、降雪期に噴火があると、大規模な融雪型火山泥流が発生するという危険性があるというふうに言われております。そういったことで、火打山川や焼山川に砂防堰堤をずっと整備してきました。ある程度完成して、終わってはいると思うん

ですけど、古い、早くにやった砂防堰堤はもう、堰堤の背後は土砂で埋まってるんですよね。そうなると、土石流や泥流が発生しても機能しない、そんな状況だというふうに思ってます。これは、もう行政でも、その辺分かっていると思うんですが、機能しないものが幾つあってもしようがないんですけど、早川の安全を守るために何か対策を取ってきているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほど議員のほうからもお話ありましたとおり、新潟焼山は、過去に噴石とか土石流によりまして、早川地区の重大な被害をもたらしたことから、地域の安全・安心のために現在堰堤の整備のほうを依頼してるところでございます。今ほどお話ありましたとおり、早いうちに堰堤を整備した箇所もありまして、やっぱりそういった背後に土砂が回っているという状況も承知しておりますので、現在、整備済みの堰堤につきましては、新潟県のほうから除石とか、あと改良のほうを行っていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

現状がもう分かっているね、要望しているということですが、背後の土砂を取るか、それか堰堤のかき上げですよ、それぐらいしか対応がないと思うんですよ。もう少し、幾つもあるところ入ってるんで、それも計画的に早くやらないと、何かあったときには大変なことになりますので、国や県のほうにしっかりと要望していただきたいなというふうに思っております。この堰堤が、本当に機能していないということは、この融雪型火山泥流、大体早川を下ると日本海まで流れ着いてしまうということも言われていますし、火山流の場合はおおむね7キロぐらいという相当な民家が駄目になるというふうに思っていますので、今後しっかりと整備をしていただきたいなというふうに思います。

それと、御嶽山、前にも私やったんですけど、御嶽山のときは、気象庁の地震計を設置してあって、地震の急増を捉えていたにもかかわらず、火山性微動が直前まで観測されなかったということで、避難誘導しなかったんですよ。それが、今回のこの御嶽山の大きな災害につながってしまったというふうに思っています。

このようなことが起こらないためにも、やはり気象庁のほうとしっかりと対応して、それなりの対応をしっかりと取っていくのも確認してもらったり、長野県でも火打の近くに火山計、地震計をセットしてあったらいいけど壊れていたということで機能してなかったんですよ。そういうこともありますので、もう少しそういうのの点検もしていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

新潟焼山につきましては、平時から気象庁によります地震観測を行うとともに、県の火山監視システムにもよりまして、24時間体制で観測・監視をされているところでございます。

市としましても、なるべく早くといったこととございますので、そういった情報を的確に押さえながら、予想段階で、そういった被害が、災害が予想されるといった段階で、噴火警戒レベルといったところを気象庁のほうからも指示いただいて、出させていただくといった流れになってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

気象庁も24時間体制で管理してるということは、非常に危険な山だということなんで、それもやっぱり行政でも認識していただければなというふうに思います。

次に、柏崎刈羽原発について伺います。

県議会では12月定例会で花角知事が、国の対応を確認した上で、6号、7号機の再稼働を容認すると改めて表明がありました。これについて私、今回触れるわけではありませんが、もし最悪の事態が発生したときに、糸魚川市の市町村別避難施設というのがあるんですよね。それを見ると、糸魚川市では62施設、収容人数が2万7,510人というふうになっていますが、これに対しての受入れ体制というのとは取られているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

まず、最悪の事態、緊急事態となった場合には、当市のほうで柏崎市、刈羽村からの広域避難者を受け入れるといった事態がございます。そういった方々は、まず避難経路所というところで、避難者の受付をさせていただいて、その後、各避難所へ誘導するといった流れになってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

それも相当な人間がね、来られると思うんで、向こうで災害があったということは、この辺も地震で揺れているという可能性もありますので、ぜひ民間にもお願いしながら進めていただきたいと思います。

今、そこで重大事故が発生した場合に、6方向に避難する、整備避難道に国が1,000億円の予算を盛るということで、10年以内に整備を終わらせたいというようなことも言っているようですが、糸魚川市でも、今言いました施設に行くところの道路の整備をメインにやるという避難道路、

こういうところについて、もし悪い道路があれば、ここに話をしながら、県に話をしながら進めて  
いただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

現在のところ、当市には、今ほど議員ご指摘のような避難路の整備について、国ですとか県による支援の情報というのが入ってきていない状況でございます。情報収集をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

予算も相当な予算も組んでいますんで、このときに道路の整備も併せてやっていただくというのと、今言われた避難経路、これがマリンドリームが避難経路になっているということなんですよ。マリンドリームも多くの方が来て、そこへ一旦集まるわけですから、今の渋滞ですよ、マリンドリームが渋滞する。そういうこととか駐車場が満杯になる。そういうところも併せて、県のほうに安全に避難できる施設整備も併せてお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

現在のところ、国・県によります避難路の整備ですとかの情報が、当市にはまだないものがございますから、まずはそちらのほうを確認して、どういったところに対する支援というのが対象になるのか、今ほど議員おっしゃられたようなマリンドリーム能生ですと、広域避難の避難経路といった形になりますので、そういうところの整備にも活用できるのか、また、原子力発電所から30キロ以上離れた、いわゆるUPZ圏外といったところでも使えるものなのかといったところも情報収集をしていきたいというふうに思っております。もし該当となるとすれば、もちろん活用するように努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

ぜひ情報を、これちょっと私も情報取っただけなんで分かりませんが、これから聞き取りがあるんかもしれないね。だから、それに対して早めに調査しておいたほうがいいのかなというふう

に思っています。

それで、そのマリンドリームなんですけど、能生事務所に伺いたいんですけど、ドコモの電波障害が発生しているというふうに伺ってるんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

高野能生事務局長。〔能生事務局長 高野一夫君登壇〕

○能生事務局長（高野一夫君）

お答えいたします。

マリンドリームの周辺地域におきまして、おっしゃられますようにドコモの電波になりますが、電子マネーの決済ですとか、スマホでのデータ通信に障害が発生しているということに関係者の方からお聞きしておりまして、その内容につきましては、庁舎内でも情報共有しているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

この電波障害もドコモのほうへ聞いたら、電波塔の位置が悪くて何か入りづらいんだというようなことも言ってたようなんですが、ただ、災害があつて、ここに大勢の方たちが避難してきたときに情報が取れないとか、連絡が取れないということになったら大変なことになると思うんですよ。やはりそういうことも考えて、市とかマリンドリームからドコモじゃなくて、市とかじゃなくて、県だとか、そういうところからドコモのほうにしっかりと要望していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えいたします。

通信環境の整備ということで、市のほうでは総務省に確認の上、今回の件も通信事業者のほうには要望をいたしております。また、マリンドリームさんのほうも、2回ほど事業所のほうに要望したとお聞きしております。防災という面もありますし、様々な方面から、整備について要望してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村議員。

○16番（中村 実君）

しっかりと、この災害のときの避難経路所になっていますので、その辺もしっかり話しして、早く対応していただければというふうに思いますし、もし電波塔だったら、キャンプ場の上の高台に

1 本立てていただければ大丈夫じゃないかなというふうに思っております。

時間がありませんのでちょっと残しましたが、これで、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

関連質問の時間がなしと認め、これで終わりにします。

次に、松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕

○18番（松尾徹郎君）

おはようございます。

非常にお聞き苦しいかと思いますが、よろしく願いいたします。

9月定例会に引き続き、行政改革と市政運営についてお伺いいたします。

市長公約には、「市民と共に、住みたいまち、住み続けたいまちを実現するために、未来を見据え、10年後、30年後の糸魚川市を共に創りましょう。」と記されております。

人口減少と高齢化が常態化していく当市の状況を考えた場合、2030年以降の将来推計を基に、それに適合する社会に変えていく必要があります。また、インフラの老朽化対策も安定的にかつ計画的に進めなければなりません。

一方、情報化社会の進展とともに産業構造の転換も考えられ、厳しい現実の中でも市内における経済・産業振興はもちろんのこと、就労の場の確保も図る必要があります、それらを考慮に入れた施策の推進と社会システムの構築が重要になると思います。

最近の市民要望を考えますと、ハード整備というよりも、生活に直結したソフト事業への要望が以前より多くなっているような気がいたします。

市長公約では、医療・介護サービス、子育て支援・教育環境の整備について重点が置かれていますが、産業振興においても、農林水産業を基盤として地域資源を最大限活用できる施策の推進、あるいは交流人口拡大を目的とした観光資源の整備など、ソフト事業を中心に施策の展開を図ろうとしています。

行政が硬直化すれば施策の柔軟性が失われ、時代の変化にも対応できません。すなわち、変革も生まれなくなり、対応の遅れが改革の機会を失います。

したがって、これらを念頭に具体的に何を縮減し、何を充実して行くべきか、事務事業の見直しとともに、将来に向けての施設整備費の確保及び補助金の有効活用にも気を配る必要があります。

「将来を見据え、当市の課題に対し、今求められているものは何か」行財政改革を進める中で、限られた財源をいかに有効活用するか、事業の優先順位と予算配分をはっきりさせなければなりません。

そこで伺います。

(1) 高齢化社会が常態化していく中、組織機構の改革を含め、今後の行財政改革について、市長の考えを伺います。